



TITLE:

4例目のハリテボク果実の和歌山県 白浜町の海岸への漂着記録

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 4例目のハリテボク果実の和歌山県白浜町の海岸への漂着記録. 漂着物学会会報「どんぶらこ」 2017, 56: 1-1

ISSUE DATE:

2017-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/220437>

RIGHT:

許諾条件により、墨消しを施している部分があります.; 発行元の許可を得て登録しています.

4 例目のテリハボク果実の 和歌山県白浜町の海岸への漂着記録

久保田 信*

Fruit of *Calophyllum inophyllum* L. washed ashore at a coast
of Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan
as the forth record

Shin KUBOTA *

* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

* Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and
Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro,
Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

和歌山県白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所周辺海岸には、これまで漂着例が稀少な熱帯系植物の散布体が記録されている(久保田 2011, 2016 など)。今回、テリハボク *Calophyllum inophyllum* L. の果実が再びここへ漂着したので報告する。

テリハボク(オトギリソウ科の高木)は、我が国では琉球

列島と小笠原諸島に生育するが(中西 2008)、その果実 1 個が、2016 年 12 月 3 日に京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に再び漂着した。本地域からは 4 個目の記録となる果実は、長径約 25 mm の球体であった(図 1)。

本種の果実の和歌山県下での漂着は、串本町潮岬で最初に記録されており(中西 1999)、また日本本土への漂着記録は、1969 年から 40 年間でわずか 18 個とたいへん稀である(中西・石井 2010)。和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”の周辺地域へは、2008 年以降、9 - 11 月に流れ着いたのが記録される様になったが、相当低い頻度で、年に 1 個あるかないかであった(久保田 2016)。しかし、2016 年には 9 月漂着の前例 1 個(久保田 2016)と併せ、今回の 12 月の発見で、1 年に 2 回の漂着という今までにない記録となった。

引用文献

- 久保田 信. 2011. 和歌山県沿岸に漂着したサガリバナ *Barringtonia racemosa* (サガリバナ科) の果実. 南紀生物 53(1): 78.
- 中西弘樹. 1999. 漂着物学入門. 211pp., 平凡社, 東京.
- 中西弘樹. 2008. 海から来た植物. 319 pp., 八坂書房, 東京.
- 中西弘樹・石井 忠. 2010. 日本本土における熱帯起源の漂着果実と種子の 40 年間の変化. 漂着物学会誌 8: 7-11.
- 久保田 信. 2016. テリハボク果実の和歌山県白浜町への 3 度目の漂着. 漂着物学会会報「どんぶらこ」55: 16-17.



図 1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に 2016 年 12 月 3 日に漂着したテリハボクの果実 (2016 年に 2 度目の漂着)